

東北地方 3 か月予報

(3 月から 5 月までの天候見通し)

平成 2 1 年 2 月 2 5 日
仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 3 か月の天候 >

向こう 3 か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
気温は、高い確率が 5 0 % です。

3 月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて曇りや雨または雪の日が多い見込みです。

気温は、高い確率が 5 0 % です。

4 月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。寒暖の変動が大きいです。

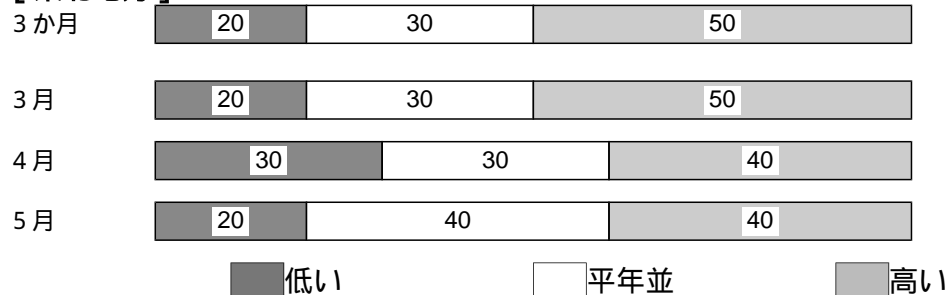
5 月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は、平年並または高い確率がともに 4 0 % です。

< 向こう 3 か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >

< 気温 >

[東北地方]

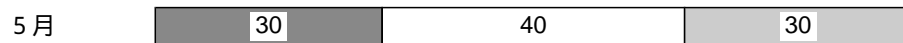
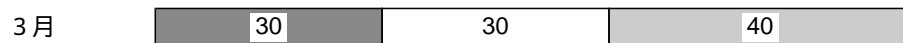





< < 降水量 > >

[東北日本海側]



[東北太平洋側]



 少ない  平年並  多い

< 次回発表予定等 >

1 か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は2月27日

3 か月予報：3月25日（水） 14時

3月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）平年値（月・３か月平均気温、降水量、日照時間）

	気 温()				降 水 量(mm)				日照時間(時間)			
	3月	4月	5月	3月～5月	3月	4月	5月	3月～5月	3月	4月	5月	3月～5月
青森	2.0	7.9	13.1	7.7	69.5	60.7	78.8	209.0	140.8	187.3	210.1	538.3
深浦	2.6	8.3	13.0	8.0	78.3	93.3	108.8	280.4	120.0	174.7	197.4	492.1
むつ	1.4	7.2	12.1	6.9	77.3	81.1	92.3	250.6	154.3	193.8	207.7	555.8
八戸	2.3	8.3	13.1	7.9	51.6	58.9	84.7	195.2	173.8	194.3	207.5	575.6
秋田	3.2	9.2	14.2	8.9	93.0	117.6	122.8	333.4	135.7	175.0	191.4	502.1
盛岡	1.8	8.4	13.8	8.0	80.1	93.8	103.3	277.3	167.3	175.1	194.9	537.3
大船渡	3.5	9.0	13.6	8.7	91.8	138.0	149.8	379.6	168.7	176.0	196.3	541.0
宮古	3.0	8.7	13.1	8.3	85.9	96.3	98.4	280.6	182.9	192.3	191.8	567.0
仙台	4.5	10.1	14.9	9.8	73.0	98.1	107.9	279.0	182.3	190.9	198.7	571.9
石巻	3.7	9.2	14.0	9.0	70.3	91.8	98.2	260.3	189.7	192.6	206.5	588.8
山形	3.1	9.8	15.4	9.4	66.5	68.1	81.3	215.8	146.5	180.3	201.9	528.6
新庄	2.0	8.1	14.2	8.1	112.1	98.3	106.6	313.6	117.2	150.2	180.1	448.2
酒田	4.2	9.8	14.9	9.6	103.5	105.5	116.8	325.8	126.1	173.1	198.7	497.8
福島	4.9	11.3	16.5	10.9	76.9	79.5	87.5	243.9	179.2	188.6	198.1	565.8
若松	3.0	9.9	15.5	9.4	63.9	63.4	80.5	207.8	140.1	175.8	197.9	513.7
白河	3.6	9.8	14.8	9.4	71.1	100.5	120.0	291.6	183.4	184.2	188.4	555.9
小名浜	6.2	11.1	15.1	10.8	106.1	128.3	147.0	381.4	187.8	186.1	198.4	572.3

欠測により平年値を求めるための資料年数（観測値のある年数）が各月毎に異なることなどにより、３か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

（２）1971～2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要 素	予報対象地域	3月	4月	5月	3月～5月
気温平年差()	東北地方	-0.4 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.5	-0.3 ～ +0.4	-0.4 ～ +0.2
	東北日本海側	-0.4 ～ +0.4	-0.5 ～ +0.6	-0.3 ～ +0.4	-0.4 ～ +0.3
	東北太平洋側	-0.4 ～ +0.3	-0.5 ～ +0.5	-0.3 ～ +0.4	-0.3 ～ +0.4
降水量平年比(%)	東北地方	87 ～ 111	89 ～ 112	86 ～ 115	91 ～ 106
	東北日本海側	90 ～ 109	90 ～ 110	84 ～ 110	94 ～ 107
	東北太平洋側	78 ～ 120	84 ～ 113	82 ～ 111	89 ～ 106
日照時間平年比(%)	東北地方	91 ～ 108	94 ～ 103	98 ～ 105	98 ～ 104
	東北日本海側	92 ～ 108	92 ～ 106	95 ～ 104	99 ～ 104
	東北太平洋側	96 ～ 107	95 ～ 102	99 ～ 106	98 ～ 104

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の３つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000年の30年間に於ける各階級の出現率が等分（それぞれ33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10％以下や60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。

東北地方 3 か月予報解説資料 (3～5 月)

平成 21 年 2 月 25 日 仙台管区気象台

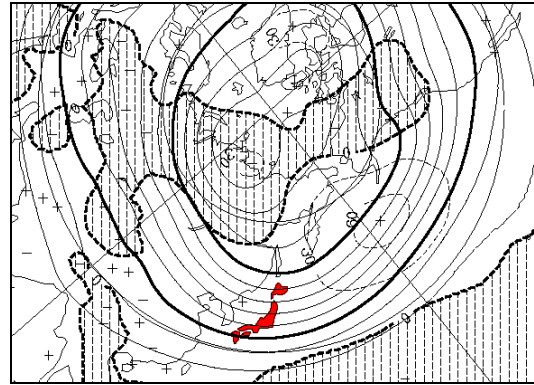
1. 向こう 3 か月の確率予報の特徴

	気温	降水量
3～5 月：	高い確率が 50%	各階級の確率の偏りは小さい
3 月：	高い確率が 50%	各階級の確率の偏りは小さい
4 月：	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
5 月：	平年並または高い確率がともに 40%	各階級の確率の偏りは小さい

2. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図（右図）：

予想図では、日本付近を含む中緯度帯は広く正偏差（平年より高度が高く、一般に暖気に対応）で、高温傾向が予想される。ただし、寒気が南下して低温となる時期もある見込み。



3 か月平均の 500hPa 高度と偏差の予想図

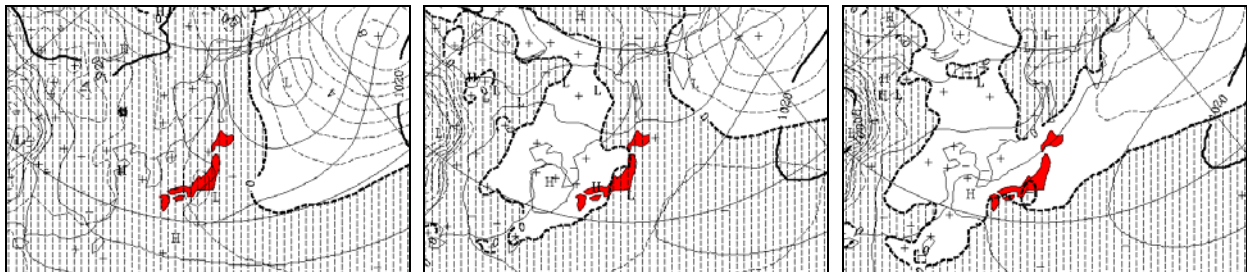
実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎
陰影部は負偏差（一般に寒気に対応）

月別の地上気圧と偏差の予想図（下図）：

3 月：アリューシャン低気圧は平年より弱く、寒気の影響を受けにくい見込み。また、日本の南岸が気圧の谷となりやすい予想。天気は数日の周期で変わるが、東北太平洋側では低気圧や前線の影響を受けやすい見込み。

4 月：黄海付近で高気圧が強い予想だが、日本の東海上は気圧の谷となりやすい。天気は数日の周期で変わるが、一時的に寒気の影響を受ける可能性がある。

5 月：日本の南東海上で高気圧が弱い、日本のはるか東海上から北日本にかけて高気圧が強い予想。天気は数日の周期で変わり、高温傾向が予想される。



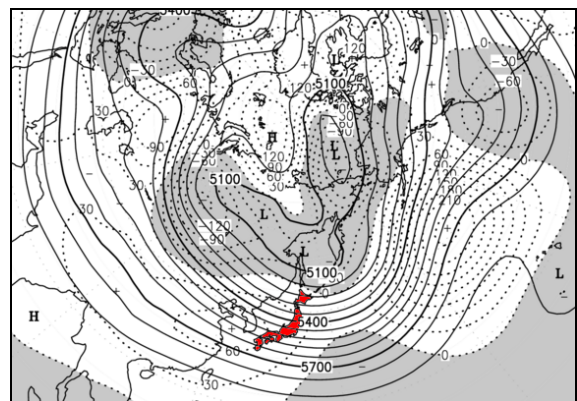
月別の地上気圧と偏差の予想図（左から 3 月、4 月、5 月）

実線は等圧線 4hPa 毎、点線は偏差 1hPa 毎、陰影部は負偏差

3. 今月の循環場の特徴

2 月(20 日まで)：500hPa 高度では、中央シベリアから千島近海にかけてと、日本の南東海上が負偏差となった。一方、北太平洋に顕著な正偏差があり、また、黄海付近にも正偏差があって日本付近をおおったため、寒気の影響を受けにくい大気の流れとなった。

東北地方は気温の高い日が多かったが、中旬の後半は、一時強い寒気が南下した影響で気温の低い日が続いた。また、上旬は低気圧や前線による天気の崩れは小さかったが、中旬は低気圧が発達しながら北日本を通過したこともあり、この期間の降水量は東北日本海側で平年を上回った。



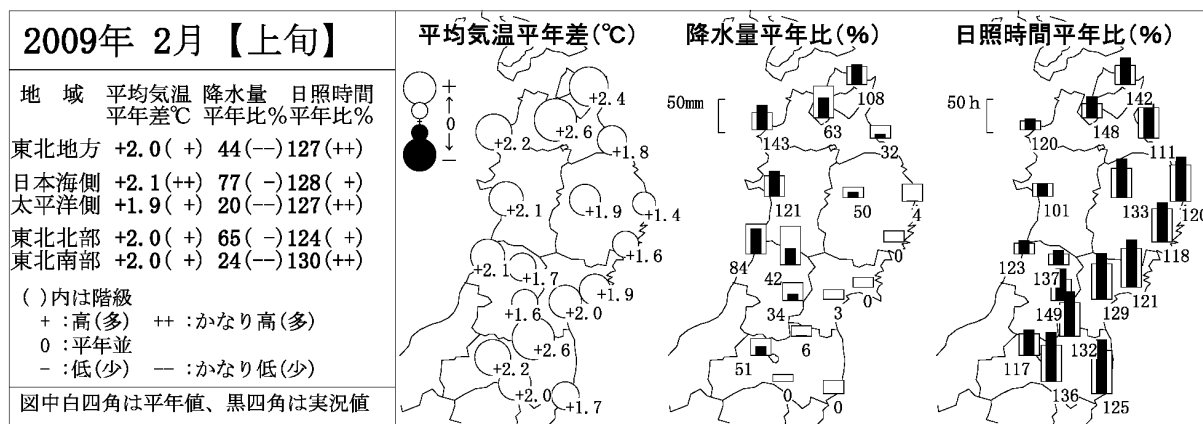
2 月 1 日～20 日の平均 500hPa 高度

実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎、陰影部は負偏差

4. 最近の天候経過

2月上旬：低気圧や前線が短い周期で通過したが天気の流れは小さく、また、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となったが長続きしなかった。7日は寒冷前線の通過に伴って大気の状態が不安定となり、秋田県で竜巻による突風災害が発生した。

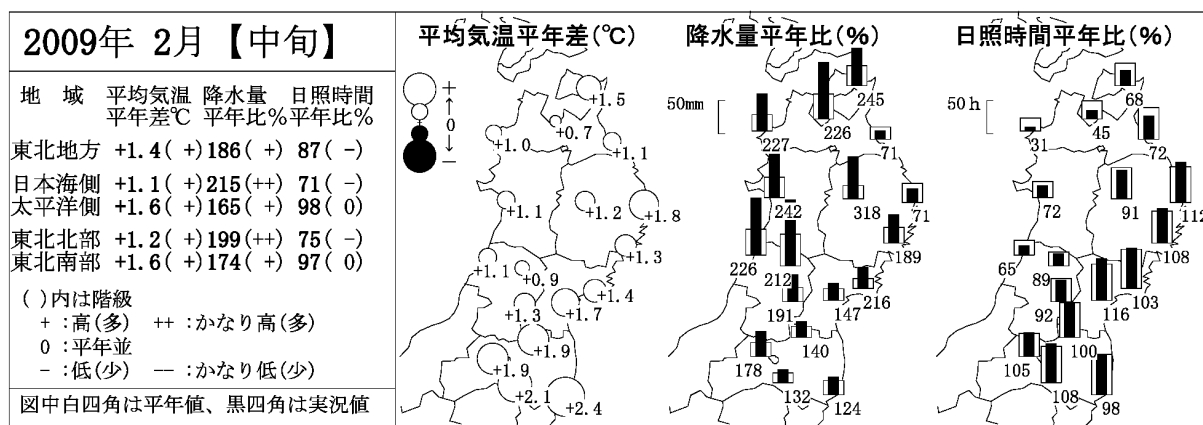
平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北北部で多く、東南北部でかなり多い。



東北地方における2月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

2月中旬：13日から14日にかけてと20日は低気圧が発達しながら北日本を通過した影響で大荒れの天気となった。その他の日は冬型の気圧配置となることが多かった。期間の前半は高温となったが、14日の低気圧通過後は強い寒気が南下し低温となるなど寒暖の変動が大きかった。20日は青森県と秋田県で強風により建物被害や停電、交通障害などが発生した。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。



東北地方における2月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

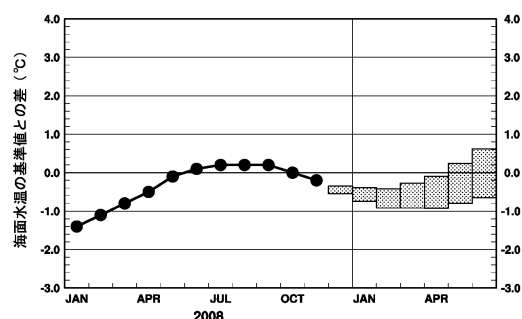
5. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

太平洋赤道域の海面水温は、中部で顕著な負偏差、西部では正偏差だった。海洋表層(海面から深度数百mまでの領域)の水温は、中部から東部にかけて顕著な負偏差、西部で顕著な正偏差だった。日付変更線付近の対流活動は不活発だった。これらの状態はラニーニャ現象時に見られる特徴を呈している。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後春にかけて基準値に近づくと予測される。ラニーニャ現象は春にかけて終息に向かう見込みである。

<参考資料>

平年の天気出現日数(日)



エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の推移(折れ線グラフ)と今後の予測(ボックス)

	3月		4月		5月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	13.3	19.8	16.8	18.2	17.6	17.7
雨の日	14.0	8.3	10.9	8.9	10.4	9.3

晴れの日、雨の日は、それぞれ「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を用いている。